

神戸の風色

KOBE ● FUSHOKU

堀内初太郎 NO・9





神戸の紳士淑女は、珈琲を片手に
地球の未来を考えながら、明日の朝
にはく“靴の色”のことも考えるのです。

秋いちばん

9月12日ヨシオカ新装 open

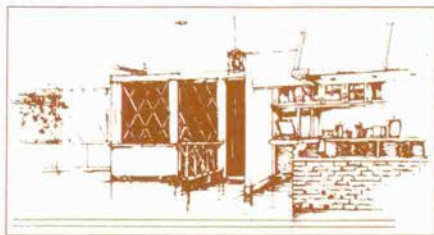


本格派の人々に愛される

ヨシオカ

本店/神戸大丸前 ☎078(331)5190

東京店/東急百貨店渋谷店・日本橋店・吉祥寺店・池袋バルコ



ヨシオカの2Fに同時 open

CAFÉ POLO

神戸大丸前店 ☎078(392)1968

元町店(元町画廊地下) ☎078(391)3155





1980~81 World Fur Collection

●世界の毛皮展示会

ととき・10月16日(木)~21日(火)

ところ・さんちか広場

真珠・貴金属・毛皮・輸入婦人服

ムラタ

さんちかレディスタウン
(神戸市生田区三宮町1丁目1)

☎(078) 391-3886

本社

(神戸市生田区元町通6丁目35の2 明邦ビル)
☎(078) 341-8041

COLLECTION **DUVET**
DAUNEN KOLLEKTION
DOWN COLLECTION

HIVER 80/81



made in PARIS France

Lothar's

ダウンジャケット (カラー10色) ￥ 49,500

◇ (皮製) ￥ 280,000

ベスト ￥ 38,000

・子供サイズは6才～10才まで用意いたしております。

Sanohe

本店

元町2丁目/(078)331-4707

ヌーベル サノヘ

元町1番街/(078)321-1710

クレージュ サノヘ

トアロード/(078)331-1952

デセールショアジ

丹精こめた手づくりのクッキー



●ギャレット・デ・ロア ¥1,500 ●パレ・オ・ショコラ ¥1,500 ●デセールショアジ ¥1,300

神戸らしさを演出する



5 階	茶室「満月庵」・ゴーフルルーム
3・4階	事務所
2 階	レストラン風月堂
1 階	和洋菓子・茶寮
地 階	風月堂ホール

 **神戸風月堂**

本社・神戸市生田区元町通3丁目195

☎(078)321-5555



● スギヤお店めぐり
〈大阪・戒橋店〉
(ホリディンスクウェア1F)

神戸ファッションの人気は高く
やはり明るいカラーが好評です。



「お客様との心の通った
コミュニケーションを大
切にしたいと思っていま
す。エレガント&スポー
ティブファッションが主
流で、カラーはやっぱり
明るいものが好まれます」
と話す営業部長兼戒橋店長の
杉浦伸一郎さん。ヤングミセス、
オフィスにお勤めのお客様が多
く動き易く上品なものに人気が
あります。開店して1年余り
ですが神戸センスとスタッフの経
験豊かなアドバイスに、ここ戒橋
界隈でもファンが多いよう
です



LADIES' WEAR KOBÉ OSAKA TOKYO

SUGIYA

本店 神戸トアロード 電話078(331) 3436

名谷店 名谷須磨パティオ 電話078(792) 6066

阪急神戸店 阪急百貨店神戸支店内 電話078(321) 3521

六甲店 阪急六甲駅ファミリーストア内 電話078(871) 2733

芦屋川店 阪急芦屋川駅ファミリーストア内 電話0797(31) 8193

宝塚店 阪急宝塚南口駅ファミリーストア内 電話0797(73) 1244

梅田阪急三番街・心斎橋バルコ・戒橋ホリディンスクウェア・西武大津店・池袋バルコ・西武宇都宮店

リザ・サロン	CAN
ルイ・ミッシェル	ゲルラン
CABIN	東京屋
フランス・アンドルヴ	高野
ジョー・ジュ・レッシュ	BONフカヤ
ダイアナ	ザ・コレクション
Pia	ココ山岡
ルベール	フランコ
ランブ	三愛
美呂	電話078-332-1698

FASHION PARK

神戸・三宮(さんプラザ・センタープラザ)3F



おい、鳥よ。私を見つけられるかい。— 私は、秋の一部分。

《そごう》が選んだ

陶芸の粋

題字 望月美佐

《十二代》田原陶兵衛作 灰被り一重口水指 髑雲斎宗匠御書付



9月の
画廊催しご案内

■美術画廊(6階)

●8/28(木)～9/4(木)

ヨーロッパ巨匠版画展

●9/5(金)～10/10(木)

現代志野作陶展

●9/12(金)～17(木)

【十二代】

田原陶兵衛茶陶展

●9/19(金)～24(木)

木工芸術の粋「ロクロ」と木竹染染の技

■伝統工芸作家

川北良造・福田芳朗

2人展

●9/25(木)～10/1(木)

■第3回・備前焼

三村陶伯陶芸展

●写真作品についてのお問い合わせは美術画廊(6階)内線6号までご連絡下さいませ。



神戸三ノ宮
そごう
※F 078-221 4181

☆私の意見

神戸は

世界に通じる窓

牧 冬彦

△神戸製鋼所取締役副社長
神戸経済同友会代表幹事▽



神戸は、昔から日本の窓だったので、時代の変遷とともに対外的な窓としての役割は少なくなってきました。神戸に住んでいて実感として思うのは、海や港によるコミュニケーションが非常に発達してきたということです。日本の産業は、ほとんどが海外から原材料を調達し、加工して売り出しており、企業として経済活動をしているところは、世界のマーケットを意識しているはずだから、まさに窓という意味で、神戸の活力は、今後とも強まることはあっても衰えることはないでしょう。

国内の経済環境も大事ですが、その奥に広がっている世界の、先進国はいうまでもなく、発展途上国、南米やアフリカの奥地まで目を配らざるを得ないという環境にあるというのは、日本の宿命のようなもので、最近叫ばれている国際化は、単なるスローガンでなく、実感としてあるわけです。神戸は「外国」をそのままつみこんで調和しているという非常にいい伝統があり、戦前の日本のような非常に閉鎖的な社会でも、神戸の場合は外国人が歩いていても異和感のない街だから、我々としては仕事やし易いことは確かです。私どもも、神戸という名を社名に冠していますので、神戸のイメージが高まるということとは、我々のイメージが高まることですし、逆に我々が神戸のイメージを引き上げていくという面もあるのです、及ばずながら我々も頑張っているわけです。

この世界の窓である神戸の、まさに港の突端であるポートアイランドで博覧会を開くのですから、参加する人たちは、開かれた窓から世界を見えるという感覚をどこかでもつたろうと思います。博覧会では、我々はそんな意味から、最もシンプルな映像を使って世界を知ってもらおうと思っています。世界というのも、物理的空間だけでなく、生命という広がりをもったもので、それをビビッドに実感してもらえような映像を作ろうと思います。短い時間ですが、そんな印象を強烈に受けてもらえればいいわけで、それがまさにポートアイランドの生命だと思っています。

(談)

素朴な陶芸品に触れると
心が落ち着くようです。

ANAN

あんちく
シリーズ

9



あんちく AN AN
庵

神戸市生田区三宮町2丁目1番5号
センタープラザ西館3F306号
中尾 忠義 ☎392-3471

● 9月のゲスト ●

大原一成さん
〈板前寿司「おちよぼ」〉
三宮でお寿司屋さんを
始めて22年。丹波・備
前など素朴な陶器が大
好きな大原さんです。

刀剣 古美術



摩利亜観音 (17世紀)

¥360,000

毎月20日 無料鑑定
研磨、白サヤ、その他工作
お支払いに便利なローンをご利用下さい。

刀 剣 元町美術
古美術

神戸市生田区元町通 6丁目25番地
三越百貨店東へ150m 商店街山側

TEL 078-351-0081

随想



カット／田中美穂

笑売の話^{しょうばい}

少々^{しょうしょう}

杉村美奈子

△漫才作家▽



おんな。

二十二歳。

独身。

神戸女学院大学文学部四回生。

漫才作家。

これが私。はじめの四行までは、あのキャンディーズの憧れた人普通の女の子Vであるが、最後の一行、マンザイサッカ、という漢字四文字のために、私は、おかしな、異常な、変てこな、摩訶不思議な、奇妙きつな、女の子であるうと思われているのである。

まあ確かに漫才作家という職業

は珍しい。おそらく、あのぶ厚い

職業別電話帳にさえ載っていない

職業だ。今現在、大阪に、漫才師

は二百人以上いるが、漫才作家は

十人そこそこしかない。まして

や、女性（しかも、うら若き、独身

の、美貌の?）となると、これはパ

ンダかツチノコほどの稀少価値：

…いや価値はないが……まあ奇人

変人と思われても仕方あるまい。

「お仕事は？」

と聞かれて

「漫才作家です。」

と答えると、たいがいの人は

「イー?!」

と唸って、私を頭の前からつま先

まで眺めまわす。そして

「漫才作家で何する仕事ですか」

と尋ねる。

漫才作家というのは、漫才の台

本を書く仕事である。ただ人を笑

わせるという目的のために、日夜

ネタ探し、ギャグ作りに励んでい

る。政治を支えるわけでなく、日

本経済の発展に役立つわけがなく、はつきり言って、あってもなかったもどっちゃでもええという、たよりない商売だ。

人に馬鹿にされることはあっても、尊敬されることはまず無い。

「小説を書いています」

と言うと聞こえが良いが

「漫才書いてますねん」

と言うと、うさんくさそうに見られる。

そのうえ儲からない。漫才台本の原稿料の安いこと安いこと、ダイエーがバーゲンしても追いつかないほど安い。

ところが、ところがある。これほど魅力的な仕事も他にない。

自分の台本が演じられ、客席がド

ツと爆笑に包まれたときの、あの

快感。漫才作家は、劇場の一番後

ろの隅っこの方でニヤリとチェシ

ヤア猫のようにほくそ笑むのだ。

ムフフフ。漫才作家ほど素適な

笑売はない。これだから漫才作家

はやめられない。

というわけで、私は現在、一人

で四足のワラジをはいている。

所帯主（収入を得るヒト）

主婦（独り暮らしなので）

学生（卒論ガンバラナクチャ）

そして漫才作家。

四足のワラジのひもを締めなお

したところで、笑売の話を少々、

これにて終了でございます。

ミニチュアボトル コレクション

鴨田 洋子
△旅行愛好家▽



趣味色々、これは、お酒のミニボトルコレクションの話です。先日、米国のマニア向け小冊子の広告を見たのがきっかけで、初夏の数日間、シカゴの片田舎のモーター大広間でお酒のミニボトルを売る羽目になってしまったのです。その広告曰く「北米でかつて無い最大のミニボトルフェア、売買交換、オークション、いざ仲間を集え、出品の向きは、速く、テーブルを予約せよ」とありました。

早速、神戸ミニボトルクラブに御注進、数名が参加となり、素人の私は、売る人の役でくつついて行くことになりました。大トランク3個に、日本製ミニボトルを吟味してあれこれ詰め込み、御愛嬌に日本酒銘を染めぬいた帆前垂なども酒屋で数十枚調達。空港では、あまりの荷物の重さに、ポーターにジロリ睨まれたりしながら、ヨタヨタ、シカゴの会場へ辿り着いたのでした。すでに他の参加者達

はいそいそと出品準備中。やはり、こんな事だけに、日本くんんだりやらやって来るイチビリはいないとみえて、まあ趣味だけのためにいるばるようこそと、アメリカ人らしいオープンな歓迎を受けることしきり。

翌、フェア当日、本当にこんな催しに人が集まるのかと、半信半疑。それでも、テーブルに、苦勞して運んできたミニボトルを並べ、



シカゴのミニボトルフェア会場にて

菊正宗なんて染めぬいた帆前垂をキリリと掛けて、いざ開場。ところが何と、来る来る。テキサスから、マイアミから、ロスからetc.

飛行機で、あるいは、キャンピングカーでと……さすがアメリカ、距離のスケールがでつかい。会場入口で、手の甲にベタンと押されるスマイルマークが、入場料1\$の領収印、輸入肉の検印みたいで吹き出してしまいが、誰もがまるで屈

託がない。家族で仲間で、思い思いに見てまわる。日本勢も少々興奮気味で、準備中から目を付けておいたボトルへ、新しいコレクションに余念がない。一方私は、電卓片手に売りまくる。素人の私が説明するまでもなく、サントリイもニッカも、輸出向けでなく、日本の国内用で、貴重だと、即売切れ。日本酒の有田焼のミニボトルも、フアンタステイックと、大変な人気。図柄の意味など、ちょっと由緒ありげに説明すると、大変満足される。会場のあちこちで、大男が、自分の指ほどのミニボトルを手し、このバレンタインは何年物のラベルとかこの文字がちがうとか、このヘネシーの瓶は、現在はどう作られていないなど、彼らにとつての重大事をワイワイやっているさまは実に微笑ましい。

昼食時にはミニボトルをビッググラスに持ちかえて、コレクションの自慢話に花が咲き、工場主も、医者も、パイロットも、社会的な立場を離れて、趣味を通じての交友は明解で、人生に於ける趣味の価値を充分認識させられました。そのうえ成果として、神戸ミニボトルクラブと、中西部ミニボトルクラブが姉妹クラブの約束をしたこと、売子の実力で、酒屋の前掛まで売り切るという大収益を上げたことがあげられましょう。

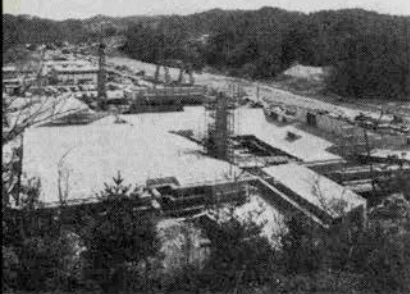
グリーンピア三木 うらばなし

幸田 庄二

△阪倉建築研究所勤務▽

手前は一介の建築渡世人、鉛筆一本片手にもって……といったところですが、この度、お上より総事業費約二百億円という巨費でもって、神戸の北、三木の山里に約百万坪の土地に、われら庶民の健康増進と文化活動とレクリエーション活動の場づくりを計画せよとお達し。待つてましたとばかり喜び勇んではせ参じ、計画にとりかかりましたが、お上としても始めての大規模な施設づくりのため、あらゆる場面で、手探りで創りあげていく苦労がありました。今回は施工における裏話を紹介したいと思います。

その1 さて、みめ麗し大和の国は、世界に冠たる公害先進国ですが、それに輪を掛けたものに懸



建築中のグリーンピア三木

景公害があります。更に悪いことには景観不感症。特に街中でもあの電柱、電線の無難作な乱立、乱線(？)は文字通り、△殺風景▽な状態であり、かの著名なフランスの大建築家ル・コルビジエも蜘蛛の巣のごとく張りめぐらされた電線に、「線の多すぎる街」として批判しておられるのであります。手前どもは、この状態に我慢できず、配線、配管をすべて、埋設にすることにしたのです！ここまでは調子良かったのですが、これが工事が始まりますと、手前どもの悲劇(？)が始まるのです。

皆様方がグリーンピア三木を訪れますと、入口モニュメントからゲートを越えてホテルまで、若干(？)継ぎあてのある整然とした道路が続いていますが、この道路が問題の道路で工事中は仮設道路として使用しましたが、地盤が悪く少し雨が降ると車輪が埋没、三木の山中で交通渋滞が起ります。そこで、碎石、砂利等を入れて修復してやっ通れる状態になると今度は、先程話をした電線や上下水等の配管を埋めるために掘りかえます。するとまた、泥々の状態になる。雨が降るとまた、以前の繰り返し。その内、各業者間での争い、お互い勘忍袋の緒がきれて、「お前がやった、いやお前のところだ」「直せ、直さぬ」の喧々譁々の詰

りあい、そこへ監督者の手前ども「大岡裁き」と堂々(？)の登場、ところが、各々の言い分を聞けば聞く程、犯人がわからず、あちらを立てればこちらが立たず、もはや統治能力発揮できず、尻をからげて遁ゾラときめ込む。すると施工の各業者(土木屋、建築屋、設備屋、造園屋、道路屋)さん等手前どもをあてにせず、自前で協議、民主主義の実践(強いものはより強く、弱いものはそれなりに)となり一件落着。——美しさの裏に、熾烈で醜い争いがあったのです。

その2 車道の両側に整然と立派な楠が植っています。楠は、兵庫県の県木として親しまれていますが、最近どこでもひっぱりだこの人気もので(本末転倒だが、公害に強い木としてよく使われる)グリーンピア三木の場合も全国を探し廻ってようやく確保しました。このグリーンピアに對抗(？)して、ポートピアが開かれるが、このポートピアランドもなぜか大量の楠が植えられつつあります。このために日本全国の大半の楠が神戸の北と南に集中して、造園屋さんは楠の確保に必死。幹廻りの大きい楠は市場から姿を消したそうです。——グリーンピア、ポートピア共にユートピアを語源にもちながらも、楠については、分捕戦争になっているのです。――



ヘルシーな夏のトルテ

ヨーグルトトルテ



当社はユーハイムコンフェクトとは関係ございません。混同されないようご注意ください。

本	店	三宮生田神社前	TEL (331) 1694
三	宮	三宮大丸前	TEL (331) 2101
さん	ち	三宮地下街スイーツタウン内	TEL (391) 3539
カ	店	フランクフルトゲートハウス内	TEL (0611) 280262
西	ド		
イ	ツ		
店			

早朝族から深夜族まで

シティ派アダルトに

COFFEE HOUSE

エリートセブン



COFFEE HOUSE ELITE SEVEN

オリエンタルホテルでは、1階ロビーを中心にした改装が終了。従来のアップパーラウンジのほかにホテル手づくりの味デリカショップを新設、そして朝の7時から深夜0時までオープンのコーヒーハウス「エリートセブン」が早くも人気を呼んでいます。また2階の宴会場もより豪華に模様替えをし、3階には会議や見合い、結納に、多目的にご利用できる小宴会場を7室新設いたしました。是非ご利用下さいませ。

オリエンタルホテル

神戸市生田区京町25

☎078-331-8111

□ある集いその足あと

吹奏楽団

ブラス・ホルターニョ

井上 優

△ブラス・ホルターニョ団長▽

ブラスはブラスバンド（吹奏楽団）、ホルターニョはラテン語で港——つまり「港の吹奏楽団」。そして私達神戸っ子は浜っ子だから「浜っ子楽団」というわけだ。

結成は十三年前。学校を卒業して社会人になっても楽器を忘れられず、ラッパを吹きたい一心で集まった団員が「練習場所がないのなら橋の下でも練習しよう」という決意の下、摩耶大橋の下や須磨浦公園の外灯の明りを頼りに練習をしたのがはじまりです。

結成時は十名前後だったメンバーも、今では、当時から受け継がれた「ブラボールド」によって四十名を超えました。女性の団員も年々増加し、現在十五名を数えます。

団員の職業は、公務員、自営業、保母、学生など千差万別。年齢も十八歳から三十八歳まで幅広く、中には三児の父親もいます。平均年齢は二十三、四歳で、これは毎年、あまり変動がありません。

団員のほとんどは吹奏楽の経験者ですが、経験といっても、小学校の時、鼓笛隊にいた、という人から、現在も楽器の教室に通う者

までさまざまです。

心の底から音楽が好きで、働きのながらも音楽を続けていきたい、と集まった仲間。職業も年齢もそれぞれに違いますが、楽団の活動がすでに生活の一部になっている人も多く、キャリアのある人も新人も楽団運営に積極的に参加しています。お互いに忙しい仕事のあい間をぬって集まっていることも



市民音楽祭で熱演するブラス・ホルターニョ

あり「みんな仲間」という意識が強いようです。

結成当時、一番の問題は練習場所だったのですが、現在は毎週、水、金曜日の午後七時半から一時間半、それに隔週日曜日の午後三時間、神戸市の児童文化会館で、月十回程度の練習ができるようになりました。

また、四十八年以降、毎年一月十五日には、神戸市が主催する成人祝いの会に演奏させていただくようになり、今年六月七日には定期演奏会も第六回を数えるまでになりました。

当楽団の一年は、一月四日の吹き初めに始まり、十二月二十日過ぎに行われる双葉学園でのクリスマス会で終わるわけですが、その間を通じて、毎月一回ぐらいは当楽団の参加行事があり、演奏する機会にも恵まれています。しかし、なんといっても一番楽しいのは、年に一、二回あるかないかの「新婚旅行見送り演奏」です。これは、あくまでも、団員が結婚するかどうかにかかっており、また、船で旅行する場合に限るわけですが、最近（は楽しいことに）年々増加の傾向にあります。楽団内のカップルもすでに六組誕生しており、六月の定期演奏会では夫婦で出演ということもありました。

また、演奏行事以外にも、春は新人歓迎ハイキング、夏は海水浴、秋はソフトボール大会、そして冬にはスキーツアーと四季それぞれに恒例のレクリエーションが決まっております。それ以外にも、もちつき大会、初詣などを行うことで、演奏以外での団員の和も大切にしていきます。

連絡先／電話 241-2692 井上優

□連載エッセイ／私のひろいもの△19▽

かいたの おやじ

竹中 郁 △詩人・絵も▽

「かいた」というのはあの有名なかまぼこ屋のことで、苗字は貝住、名は代々弥兵衛。徳川時代にはどこにあったかしらぬが、私が知った明治四十年代には、兵庫の江川町の奥まったところにあつて、七宮神社の北に当るところだった。

私は通学路をまいにち変えて歩くのが好きだった。好天気にはこの道、雨天にはこの道、と決めている。かいたの前を通るときは、時間のゆつたりとある日にしてあつた。

なぜかという、おやじの弥兵衛さんが話しかけてきて、仕事場へ入れてくれるやら、焼きたての玉子厚焼をくれたりしたからである。特別待遇を小学生に向つてする弥兵衛氏は根っからやさしい人だったのだろうが、その上、私とは宇治の県神社の毎年六月五日の祭りで同じ宿での雑魚寝の友という縁があつた。宿といっても、今という民宿で常は間口三間くらいの小売り店構え。その奥

座敷までぶち抜いて客をならべて寝させた。道幅二間くらいの通りを夜中に「ボンテン」という白い御神体が、まっくらに灯りを消した中をまぼろしのような浮き身のていで通つてゆく。そのとき、かしわでを打つて人々は拝むのであつた。

県まつりというのは、男女の仲をとりもつ神ときいたが、なぜ「かいた」のおやじが一人旅でそんな祭りへつづけてきたのか、私にはわからない。その宿でねむたい私が幾たびか寝ぐるしさに目をあいてうちわの風のくる手もとをさがした。そのうちわの主は弥兵衛氏であつたことが三度や四度ではなかった。軒先には祭り提灯とならんで同じ大きさに「兵庫やど」と書いてあり、ほたるがたくさんとび交うていた。

弥兵衛氏が小学校へ通う私をみつめて、声をかけてくれるのには、そんな馴染みが以前からあつたからである。



かいやの店と住る場

むたり旅日記



さて、それから一足とびに話とはぶ。私が「かいやのおっさん」といい馴れた人の息子が「かいやのおやじ」になって、かまぼこを買いにゆく私と昵懇になるという時世になった。この人は、私の中学校の先輩で、ついで関西学院の先輩という縁しの人だった。

もっとも戦後の貧のどん底。そうそうはかいやの焼きぬきを買いにいける身分ではなかった。焼きぬきというのは格別世間のかまぼこと異なるのではないが、よそのは増量のために澱粉をいれる。かいやでは魚の身だけをすりつぶして板に盛りつけて焼く。むかしはハモとキスとを混ぜたが、戦後はハモ一すじになった。キスが買いつけ難いのだから、しかたがない。

私の顔をみると、太っちょの弥兵衛さんはそのすりみを一包みつつんでくれた。先代からのなじみの客という意味らしかった。私も亦、大いにそのすりみをもらうのを当てにいかいやへ行った。

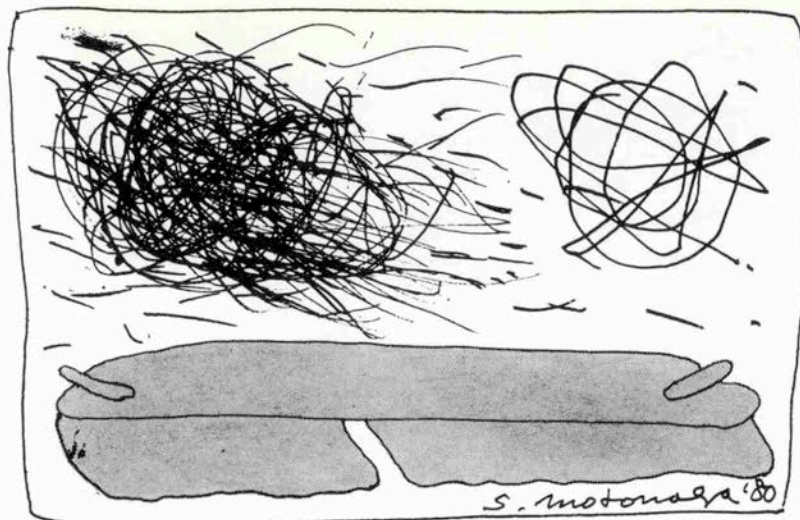
そのおやじさんが、今年二月二十六日に亡くなった。小学校のべんとうのおかずまで入れてもらって私の愛していた焼きぬきとは、もう縁がきれたか、と思っていたが、幸い「かいや」の店は一世代とんで孫の晴士さんが仕事を継いでくれた。本来ならこの人の伯父さんあたりが継ぐのだが、貝住家は妙に理科系にすぐれていて、戦争のせいもあって、そんな方向へ行ってしまった。

こんどのあるじはまだ若い。おやじというには気の毒なくらいだ。しかし百年は十分に超えた「かいや」の焼きぬきを守ってくれるとあれば、おやじという称号をさしあげてもよい。

神戸歳時記 ● 九月

台風のことなど

三枝和子 (作家)
絵 / 元永定正



九月と言えば台風。台風と言えば室戸台風。あれは怖かった。昭和九年。それから台風に関連して思い出されるのは神戸の大水害。こちらは昭和十三年。小学校の四年生だったと思う。私たちは神戸を離れて田舎にいて、直接の被害はなかったが、板宿の叔父の家が大変だった。

やっと開通した山陽電車に乗って、父と二人で見舞いに行った。小学校の四年くらいでは何の役にも立たないだろうが、好奇心から同行をねだったのかもしれない。その辺のことは、よく憶えていない。

とにかく見馴れた風景が異様に茶色っぽく変ってしまっていて、そのことが怖しかった。ぐしゃぐしゃになった畳が何枚も道路に打ち捨てられてあった。

その頃、叔父は新婚で、医院を開業したばかりだった。診察室のベッドの下にまで土砂が流れ込んで来た、と聞いた。

「神戸の土は、もういのですねえ」と埼玉から嫁入って来た若い叔母は溜息をつきながら、看護婦さんと一緒に拭き掃除をしていた。何度拭いても泥が噴き出る、とこぼしていた。

最近、頓に開発が活発になった北神戸の住宅地のあたりを車で通つたりすると、必ずこの叔母の言葉が思い出されて、不吉な思いに捉えられる。神戸の土はもういのに、大丈夫かなあ、と不安なのだ。

そう言えば、谷崎潤一郎の『細雪』にも、この神戸大水害が登場する。末娘のこいさんのロマンスがらみで、確か岡本か夙川あたりで災害に会ったのだったか。相手の男が板倉という名で、私はそ

れを読んだとき、何を勘違いしたか、ずうっとこ
いさんは板宿で災害に会ったと決め込んでしまっ
ていた。それは、ずいぶん長いあいだ訂正されな
いままでいた。サブ・コンシヤスというのは不恩
議な働きをするものである。

もう一つ台風の思い出。

これは十数年前の出来事である。台風の予報が
出ていたのだが、約束があつて、亭主ともども神
戸に赴いた。差し迫つた用件ではあつたのだが、
いささか舐めてかかつたふしもある。バスの最終
は時間が早いので、加古川線の最終に間に合わす
ため、三ノ宮を九時二十何分かの国電に乗る、と
いうのが予定であつた。ところが八時前から垂水
駅あたりで線路に浸水したとかで、国電が不通に
なつていた。相手の人は垂水の住人である。その
ひとも帰れない。呑気に喋つていて、九時過ぎに
三ノ宮駅に来てから、この始末である。慌ててあ
ちこちホテルに電話したが、処置が遅すぎて既に
満室である。

「かみさんの実家に泊りましょう」とその人は言
う。駅から歩いて二十分くらいの距離だとすすめ
てくれる。その人は、かみさんの実家だからいい
かもしれないが、こちらは何となく気づかない。
しかし他に方法もないので、仕方なく、三人でガ
ード下を西へむかつた。

元町駅まで、ガード下を歩いたのだが、これが
凄かつた。私は背が低く、脚も短いので、膝のち
よつと上まで水没のまま前進せねばならない。
明りの消えた商店街は、どんなふうになっている
のか、よく分らなかつたがとにかく真暗な川のな
かを渡っていく思いだ。それに流れが早かつた。

ようやくに辿りついた「かみさんの実家」は停
電で、ローソクのゆらゆらした炎の下で初対面の
挨拶を交わした。翌日は当然のことだが快晴で、
何となくバツが悪い思いで朝飯をごちそうにな
り、何となくしらけた感じで街へ出て行つた。

台風の翌朝の街、というのを、私はあまり好き
でない。看板が飛んでいたり、街路樹の大きな枝
が舗道に転がっていたりする。それでいて陽差し
が結構ぎらぎら暑い。

それでも昔はコスモスという花があつた。この
頃、何故か見かけることが少なくなつたが、以前
は、ちよつとした空地や庭には必ずといつていい
ほど丈高く咲いていた。これが台風の翌朝、なぎ
倒されている姿を見ると、奇妙に心が騒いだ。昨
夜は吹き荒れたのだなあ、と思う。そして、いま
総てが納まつて秋が来る——。看板や街路樹の枝
だけではそんな感慨は湧かない。

おそらく、台風を野分と呼んでいた古い時代の
風情に、コスモスまでは繋がっていたのかもしれ
ない。

二十十日が済むと間もなく「白露」だ。私は二
十四節氣の、この「白露」の頃が好きなのだが、
いまの神戸ではなかなか味わえない。昔は六甲山
の山肌が、ふいっと蒼ずむように秋めいて見えた
のだが、そんな微妙な季節の移り変りの感覚も失
われてしまつて久しい。せめて今年も台風の被害
がありませんように、と祈つて過すくらいのこと
が昔ながらの季節感だとは、何とも情無い。